

八潮運輸株式会社
2025年
運輸安全マネジメント

2025.1.1

1.輸送の安全に関する基本方針

- ①八潮運輸の安全方針「安全は全てに優先する」自社の乗務員、交通パートナーが、事故により尊い命を落とす事が無いよう、怪我する事がないように「安全は全てに優先する」を励行する。
- ②輸送の安全を確保するため、安全に関する取組みを定め、PDCAマネージメントで取組みをしっかりと実施する。また、創意工夫によりPDCAサイクルがスパイラルアップするような取組みを行う。
- ③改善基準告示遵守にむけて、運行管理者・乗務員に対する教育をしっかりと行い、拘束時間管理を徹底する。
- ④輸送の安全に関する情報等については積極的に公表する。

2.安全に関する目標

	2024年		2025年
	目標	成績	目標
人身事故	0件	0件	0件
労災事故	0件	0件	0件
物損事故	6件	26件	6件
無事故継続日数	150日	88日	150日
自動車事故報告規則第2条に該当する事故	0件	0件	0件

3.輸送の安全の為に過去行った取組み

項目	内容
運行管理	<p>2006年 ドライブレコーダー 全車に装着(堀場アイテック製)アルコールチェックの完全実施(東海電子製)、2011年 デジタコ・ドラレコの更新(矢崎製 常時録画のドラレコにより事故・ヒヤリ時の映像完全抽出)、2013年 改善基準告示に即した拘束時間把握の実施、2017年 IT点呼機器を更新、2020年 乗務員による拘束時間管理表の導入、 2022年 点呼システムの導入により拘束時間のリアルタイム管理、 2022年 運行管理者の教育スキルの向上(外部講師によるトレーニング) 2023年 遠隔点呼システムの導入 2024年 24年基準での運行管理開始(運行管理システムの更新)</p>
教育	<p>2006年 年始に全体安全会議を開催(2011年より外部講師による安全講義も取り入れる)、2012年 年7回の乗務員教育を確立(12項目の安全教育を実施)、2017年 新人乗務員への特別教育の改変、2020年 社内運転マニュアルの整備、2021年 WEB会議システムを利用した安全会議の実施 2022年 事故報告の動画配信開始 2023年 ビデオマニュアルの配信開始 2024年 指導ドライバーによる新人教育制度構築</p>
設備	<p>2007年 バックアイカメラの全車装着(海コン車両を除く) 2011年 中柱一体型アオリの導入(中柱の脱着作業を無くす) 2012年 ボルボ車両のミラーステー改造(ミラーの死角事故を減らす) 2015年 ウイング車両のウイング開放インターロック装置導入(ウイングを開放したままの走行事故撲滅) 2021年 AI型ドライブレコーダーの全車導入 2024年 バック時の検知システムのテスト導入</p>
その他	<p>1992年 無事故表彰制度の導入 2001年 家族参加型の無事故表彰式・懇親会の開催 2004年 グリーン経営認証 取得 2006年 安全性優良事業所(Gマーク)認定 2012年 管理者による職場パトロールの実施 2017年 車庫監視カメラ設置(不審者の侵入を防止) 2017年 始業前点検完全実施システムの導入 2020年 外部コンサルタントによる運行管理レベルアップ講習受講(全6回) 2021年 事故惹起者へのラインでの注意喚起 2023年 八潮運輸 YouTubeチャンネル開設(会社紹介 思いやり運転) 2024年 YouTobeチャンネルの採用活動への展開(ドライバー紹介ビデオ)</p>

4.2024年 輸送の安全に関する取組み・総括

取組み	総括
<p>①運行管理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none">・運行管理者会議を毎月開催し、運行管理体制の強化・2024年基準での運行管理に変更	<ul style="list-style-type: none">・24年基準での運行管理を4月より開始した。事前に準備を進めていたとこともあり、順調に変更が出来た。長距離輸送については、到着時間をフレキシブルに変更してもらうなど得意先からの協力も得られ、円滑な移行が可能となった
<p>②車両整備の教育</p> <ul style="list-style-type: none">・日常点検に関する教育を実施し、始業前点検を完全実施・ドライブレコーダーで始業前点検をきちんとしているか抜き打ちチェック	<ul style="list-style-type: none">・24年度のタイヤ打検未実施者は発生しなかった
<p>③輸送安全の個人指導</p> <ul style="list-style-type: none">・1回/月の個人指導を実施・AI型ドライブレコーダーの閲覧率向上への取組み	<ul style="list-style-type: none">・毎月のテーマを決め、注意喚起を行ったが、資料配布のみとなった・発生件数の多い乗務員への個別指導と全乗務員に声掛けによる閲覧率の向上を進めた。今後は更に閲覧率を高める取組みを検討する
<p>④新人ドライバーへの指導</p> <ul style="list-style-type: none">・指導ドライバーの育成・ワンマン乗務前後のフォロー	<ul style="list-style-type: none">・指導ドライバー勉強会を定期的実施したが、管理者からの一方的な話となってしまう場面が多かった。各自の意見交換ができるような会議にしていくよう内容をレベルアップさせていく
<p>⑤安全パトロールの実施</p>	<ul style="list-style-type: none">・工場内のパトロールでの大きな指摘はなかった。今後も継続していく
<p>⑥安全教育の充実化</p> <ul style="list-style-type: none">・乗務員教育(安全12項目)の開催・運行管理者会議 1回/月開催・安全衛生委員会(班長会議) 1回/月開催・安全ルールおよび社内ルールの周知	<ul style="list-style-type: none">・WEB会議システムを利用した乗務員教育に加え、車両整備に関しては集合教育を実施した・社内ルールについて周知用のビデオマニュアルを完成させた。今後はこれを使用し、乗務員にルールを根付かせていく

取組み	総括
⑥安全会議の充実化	<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導スキル向上セミナーを継続受講した。乗務員向けの安全教育を想定した資料作りと教育実演を繰り返し実施し、レイアウトや構成についての指摘など課題は多いが、着実な進歩はみられた。今後はこの資料等を実践に投入し有効利用していく
⑦事故後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・事故後の乗務員連絡については、「事故対策会議実施後に掲示および安全会議内で周知」から「ラインワークス等により速やかな周知」に変更するなど、スピード感をもった対応を心掛けた
⑧改善基準告示遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・改善基準告示遵守についてイレギュラー事案を含め、問題があった場合は運行管理者会議内で対策を立て、PDCAを回した ・天災や車両故障、渋滞など拘束時間から除外できる項目については管理者が把握し、根拠となる資料の確保する取組みを開始した ・乗務員のシフト勤務を導入し、全体的な休日出勤時間削減に取り組んだ

総括

24年より変更となった新しい改善基準告示による管理への切り替え年度となった。事前の準備や社会的な認知度が高まったことにより得意先からの理解も得やすい状況となったことから、比較的円滑な移行出来たと感じている。

乗務員教育、運行管理については継続的な取り組みを行ったが、社内情報の共有化ツールやビデオマニュアルを利用するなど、電子媒体の有効利用を意識して取り組んだ。内容の標準化に加えて、効率的な情報伝達が可能となり、スピード感のある対応が出来るようになった。

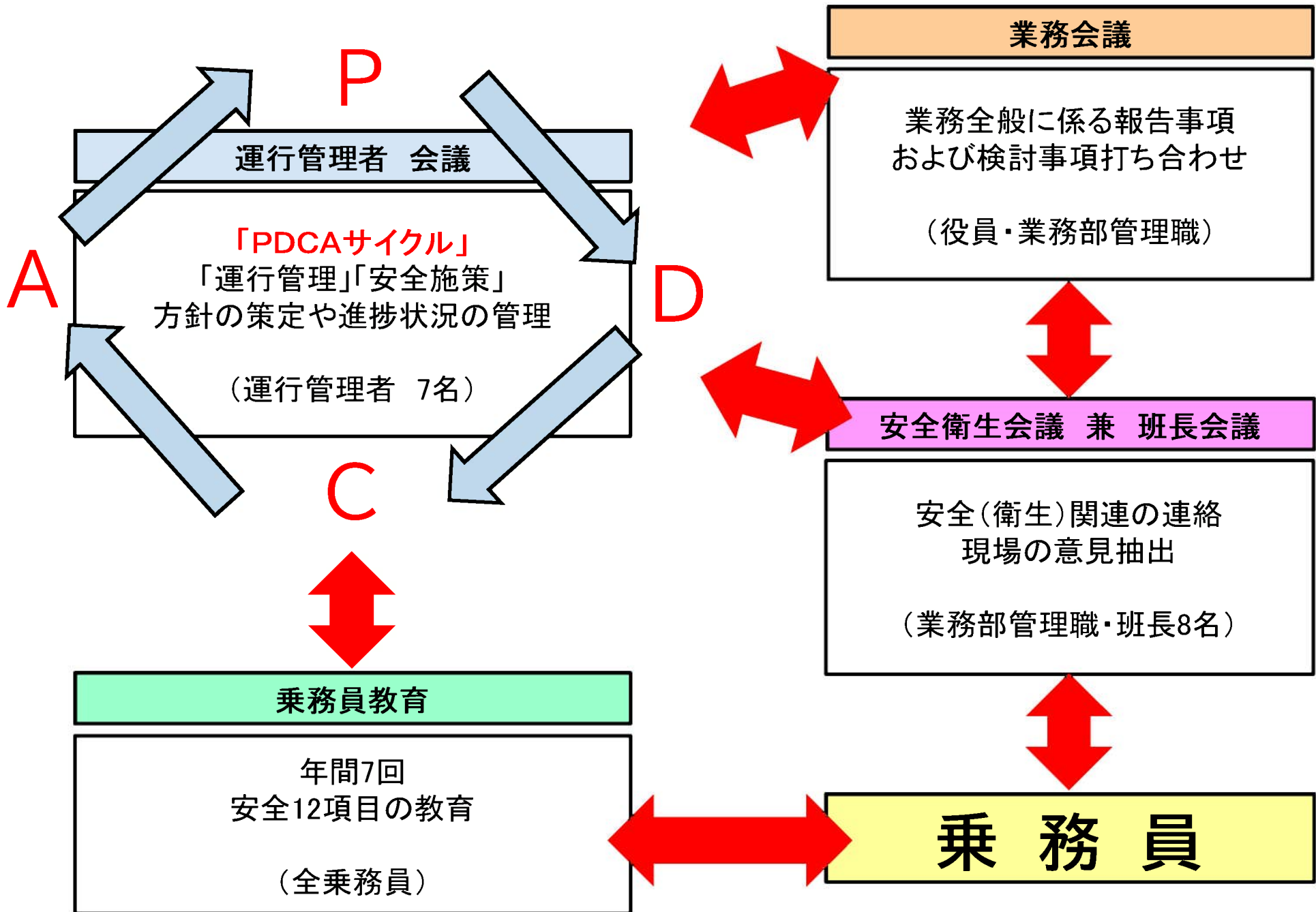
乗務員の一日をビデオ化し、YouTubeで公開した。思いのほか多くの方に視聴してもらうことが出来た。SNSの有効利用が、会社イメージ向上に繋がることを実感することが出来た。

5.2024年 輸送の安全に関する取組み

取組み	担当者・狙い
<p>①八潮運輸運転マニュアルの周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ化されたマニュアルの有効利用 ・ポスターの利用やキャッチコピー化などにより乗務員の印象に残る取組みをおこなう 	<p>担当者: 圓城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発進前の5ステップ」「車間距離の363」は乗務員に浸透してきており、行動習慣として意識されてきている。このような取組みをその他にも展開していき、リスク運転を削減する行動習慣を身に付けてもらう
<p>②ドライバーに対する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転行動を変える指導を意識した、コンテンツの充実化と指導方法を実践していく ・個別指導の充実化 ・AI型ドライブレコーダーの評価制度の導入 	<p>担当者: 圓城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者のスキルアップにより、教育内容の充実化を進める ・個別指導用としてビデオを作成し、配信により教育を実施する。コンテンツは、③の外部コンサル教育での作成題材を利用することで、より実戦的なコンテンツ作成と教育スキル向上に役立てる ・AI型DRの閲覧を賞与の査定項目に追加することで閲覧率の向上を図る
<p>③運行管理者のレベルアップのため、外部コンサルタントの教育を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者自身の安全知識や指導方法のレベルアップを行う 	<p>担当者: 田中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者のレベルアップにより、安全取組みの全体的なレベルアップを目指す ※②に記載どおり、過去の取組みを活かした個別指導用資料を管理者が作成し、ビデオ配信を行う
<p>④新人ドライバーへの指導強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導ドライバーのレベルアップ ・管理者による添乗指導を実施 	<p>担当者: 圓城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導ドライバーのレベルアップにより新人ドライバーの事故削減や定着率の向上を目指す
<p>⑤車両整備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路上故障情報の収集と傾向分析を行う ・日常点検に関する教育を実施し、始業前点検を完全実施する ・タイヤ管理、トレーラー連結などルールや手順について、1回/年の定期教育を実施 	<p>担当者: 中根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路上故障前に異常検知できるよう、乗務員の車両知識の向上を図る ・過去の重大事故をもとに作成されたルールについて定期的な教育を実施することで事故およびルールの風化を防止する

取組み	担当者・狙い
<p>⑥運行管理関係会議の定期開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行管理者会議を1回/月開催する ・安全衛生委員会(班長会議)をそれぞれ1回/月開催する 	<p>担当者: 田中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行管理者会議で運輸安全マネジメントのPDCAを回し、継続的な改善に取り組む。またその内容を班長に落としこみ、従業員の意見も取り入れる
<p>⑦事故後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故後に速やかに事故対策会議を実施する ・事故報告については対応フローを決める。また、周知には共有ツールを有効活用する 	<p>担当者: 中根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故後に速やかに事故対策会議を実施し、原因・再発防止策を把握し、類似事故撲滅に繋げる ・事故発生後の各種対応と共有方法のフローを取り決め、乗務員への対策の周知のスピードアップを図る
<p>⑧改善基準告示遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の改善基準告示による運行管理を継続し、問題点については都度PDCAサイクルを回すことにより対処していく ・事故渋滞など外部要因による時間超過については把握し、根拠となる書類を添付する 	<p>担当者: 高橋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拘束時間のリアルタイムでの管理により、改善基準の完全遵守を目指す ・超過した場合は内容を精査し、外部要因に起因するものについては根拠となる書類の添付する。イレギュラー案件を明確化させ除外した管理を行う
<p>⑨YouTubeチャンネルの有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやり運転を浸透させるよう継続的に新動画をアップしていく ・チャンネルを利用して八潮運輸の安全取り組みを外部に発信していく 	<p>担当: 圓城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部に安全取り組みをアピールすることで、八潮運輸のイメージアップや社員の安全運転へのモチベーションを高める
<p>⑩安全設備の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックセンサーの大型車への導入 	<p>担当者: 中根</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バック時に障害物を認識し、警報を鳴らす装置の導入をすることで、特に未経験からの新人ドライバーのバック事故削減を目指す

6.運輸安全マネージメント組織図



7.安全12項目の教育予定

安全行事

八潮運輸株式会社

項目	内容	実施予定											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体安全会議	全従業員に運輸安全マネジメントについての説明。昨年度の事故分析。	○											
外部安全講習会への参加	事故惹起者や新人乗務員を対象として、主にトラック協会主催の各種安全会議に参加をさせる												→
安全ミーティング	業務部管理者により1回/週の安全に関するミーティングを実施する												→

安全教育：土曜日7：00～9：00で安全教育を実施する

項目	内容	実施予定											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
①	トラックを運転する場合の心構え		○ 園城										
②	トラックの運行の安全を確保する為に遵守すべき基本的事項		○ 園城		○ 中根								
③	トラックの構造上の特性		○ 園城										
④	貨物の正しい積載方法						◎ 高橋(一)、武田、榎本、猿田				○ 榎本		
⑤	過積載の危険性						◎ 高橋(一)、武田、榎本、猿田						
⑦	適切な運行の経路及び当該経路における道路及び交通の状況								○ 中根				
⑧	危険の予測及び回避		△		△		△		△		△		△
⑨	運転者の運転特性に応じた安全運転	1回/月の個人指導の実施およびナスバネットの受診1回/年											
⑩	交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法								○ 中根				
⑪	健康管理の重要性												○ 園城
⑫	運転支援装置を使用した適切な運転方式				○ 中根								
	荷扱い中のリフト作業について						◎ 高橋(一)、武田、榎本、猿田				○ 榎本		
	添乗指導からみる問題点と安全取組み										○ 榎本		
	自社の事故分析												○ 園城
	事故事例		○		○		○		○		○		○
	添乗指導	・初任者は入社後1人運行前に1度実施する。また1人運行開始後6ヶ月～1年以内に再度添乗指導を実施する ・その他に関しては随時実施											

○ 実施予定

△ 原則実施予定だが、その他プログラムに変更の可能性あり

◎ 6月講習は、海コン=武田 チップ=榎本 外販=猿田にて実施する

※⑥危険物を運搬する場合に留意すべき事故は、取り扱いが無いため省略